

【質問項目】

1. マイナンバーについて
2. ブロードバンド環境整備について
3. 鹿児島空港の運用時間延長について

【質問本文】

1. マイナンバーについて

■質問（しもづる）

私からは、マイナンバーカードの普及・啓発に向けた、特に国民の利便性の向上という点についてどう啓発していくのかという点からお伺いをいたします。

このマイナンバー制度については、二ページにありますとおり、三つの目的が掲げられております。

私も、このマイナンバーカードが交付された時期の前後に地域の方々から、このマイナンバーって何ねという話ですとか、どげないいいことがあつとねと、そういう質問をされたことが多々ありました。その際に当然、公平・公正な社会の実現、行政の効率化、利便性の向上という三点を御説明するわけなんですけれども、県民の皆様方にとって一番興味があるところ、そしてマイナンバーカードを取得してみようと思うところは、利便性の向上というところではないかというふうに思います。逆に言えば、国全体もそうですけれども、この点の普及・啓発が進んでいないからこそ、まだ七%とか八%とかいう数字にとどまっているのではないかなというふうに思っています。

その点で二点お伺いしたいのが、もちろん普及・啓発は直接的には市町村が取り組んでいかれることになるかとは思いますが、その中で、具体的にこういうふうに便利になるんです、生活のこういう場面で便利になるんですというところをお伝えしていく必要があるのかなというふうに思っております。

そこで、具体的な活用事例、便利になる事例について、もっとわかりやすく伝える努力が必要なのではないかなと思いますが、その辺の概況について教えていただきたいというのが一点。

そして二点目は、特に個々の小さな市町村にとっては、なかなかそこまで手が届かない部分もあるかと思しますので、特に全国眺めて、こうやったら申請率も上がりましたとか、成功事例のつなぎというのは必要なんじゃないかなと思うんですけれども、そのあたりについての県としての考え方について示してください。

□答弁（情報政策課長）

マイナンバーカードの具体的な利点というのにつきましては、これまで、例えば福祉とかで申請しようというときに、それぞれが所得証明とか住民票とかいろいろなものを添付してこなければいけなかったというのが省略できるというか、行政機関でマイナンバーを使って連携できるので、御本人がそれを

準備しなくていいというようなのが一番のメリットではございますが、先ほど申し上げたとおり、自治体間の情報連携が始まるのが二十九年七月でございますので、現時点においてはまだ添付していただかなければならないところでございます。今後、添付書類の省略という意味で具体的なメリットが出てくるし、マイナポータル等を初めとする新たなメリットも出てくると思っております。

それと、二十九年度以降について、厚労省、医師会等を初めとして、保険証との一体化というのも検討されておりますので、そういったことが具体的になりますと、皆さん、複数枚持っているよりも、一枚でいたほうが便利だよねという、具体的なメリットが目に見えてくるんだろうと思っております。

それから、申請率が高いところの具体例ということでございますけれども、残念ながら他県の例で申しわけないんですけども、なかなか実際に自分で写真を撮って申請するというのが御面倒だという方がおられるということで、役場でスマホを準備されて、通知カードを持ってこられればそこで写真を撮って差し上げて、通知カードに載っているQRコードを使って役場から申請してあげるといったような話を聞いております。

これにつきましては、当初は写真を撮るため、写真館に行くのが大変、あるいはスマホを持っておられない高齢者の利用が多いという想定をしておりましたが、実際は、家族で一遍にやってほしいとかで利用率が高く、申請率も上がったというような話を聞いているところでございます。こういった事例につきましては、国もこういった事例集をまとめて各自治体に提供しているところでございます。

■質問（しもづる）

ありがとうございます。

利便性の普及・啓発については、今、答弁いただいたように、これから便利になりますというのも大事ですが、実際に実感できるのは、これができるようになって便利になったんですという段階になるのかなと思います。その段階が来るときに備えて、実際に便利になったときにわかりやすい形で、今までこれだけ大変だったけれども、これだけ楽になりますよという形で伝えていただければなと思いますし、また、今、他県の事例も御紹介いただきましたけれども、特に小規模の自治体に対して、こういう事例をつないでいく努力をしていただきたいというふうに思っております。以上です。

2. ブロードバンド環境整備について

■質問（しもづる）

奄美の視察におきましては、奄美大島におけるICT産業の振興で頑張っている方々の視察をさせていただきました。その中で一点だけ、ブロードバンド環境の整備についてお伺いしたいなと思っております。

これからICT産業を振興させていく上で、ブロードバンド環境というのは当然必要不可欠なものであります。その中で、今まで担当部局の皆様の御尽力もありまして、ブロードバンドの整備自体は進んできているわけですけども、一方で、今後もっともっと奄美でICT産業をやっていくとなると、懸念しているのが、どうしても離島ですから、今後、発展させていったときに、本土部分からのブロー

ドバンドの帯域が不足する可能性があるんじゃないかというのを懸念をしております。現状においてどのように把握しているのかということと、また、市町村を含め、奄美から要望事が上がってきているのか、その辺の現状確認をとらせてください。

□答弁（情報政策課長）

奄美を含めまして離島につきましても、本土から沖縄のほうまで海底の光回線が伸びているところでございますけれども、それにつきましては現時点でも不足しておるとは聞いておりませんし、今後も利用がふえたとしても、帯域が不足するような事態というのは想定しているような話は一切聞いていないところでございます。

■質問（しもづる）

ありがとうございます。

現状においては帯域は十分であるという御説明でありました。今後、もしも爆発的に奄美でICT産業が振興・発展した場合等々も考えられますので、ぜひ状況を注視していただければと思います。以上です。

3. 鹿児島空港の運用時間延長について

■質問（しもづる）

私から一点、鹿児島空港の運用時間延長について、数点お伺いをいたします。

この空港の運用時間延長については、地元の方々への御説明、御理解を得る努力を含め、担当の方々は一生涯懸命御努力をいただいていることかと思えます。その中で三点お伺いしたいのは、今まで、検討に当たって必要な事項として、一つは、今申し上げた地元の方々の御理解をいただくこと、そして二点目として、実際に延長した際の航空会社のほうが需要があるかどうかといったところを挙げられております。

そこで、まず一点目は、そのほかの検討ポイントはないのかどうかということ。

二点目は、航空会社への需要ヒアリングについて、現状の状況を示していただきたいということ。

そして三点目は、この延長に当たって、他の空港、鹿児島空港より運用時間を長くしている空港の延長に当たってどういうふうを実現したか、どういう経緯があったのかといった点で参考になっている事例があるのかどうかということを教えてください。

□答弁（交通政策課長）

空港の運用時間、一時間延長の件についての御質問でございます。

まず、委員が御指摘のとおり、二つの要件、地元の理解を得ること、それから航空会社のダイヤ設定があること、これに変わりはありません。その他のポイントにつきましても、特に要件については、この二点をどう地元の理解を得ていくかということに尽きると思います。また加えて、どのような効果が地元にも伝わるか、メリットがあるのかということも丁寧に説明していく必要があるというふうに思っ

ています。

それから、航空会社の状況につきましては、現在、前後三十分の前倒し、後ろ倒しを検討しておりますけれども、その時間帯に関して実際に手を挙げていただける航空会社が出てきております。一時間ダイヤの設定をずらすということは、現状の需要の状況から現実的にはないのですが、前後三十分程度であれば具体のニーズがあるようだという感触は得ております。

それから三点目につきまして、他の空港の事例をどう参考にしているかということでございますけれども、直近の例では、大分空港が昨年から実際に十五時間の運用の延長に成功しております。こちらもちろん、地元住民の理解を得るためにいろいろな工夫をされたと聞いておりますし、二次アクセスの観点からバス会社に対して利用促進をするなど、そういったさまざまな状況を伺っているところでございます。こういった地元の取り組み方、それから航空会社、二次アクセスについての対応の仕方、これらを総合的に参考にしながら、鹿児島空港においても、地元の理解が得られるよう対応していきたいというふうに考えております。

■質問（しもづる）

ありがとうございます。

今、航空会社にもニーズがあるようだということをきちんと聞き取っていただいているということで、何より一番大事なのは、以前から課長も御指摘のとおり、地元の御理解かと思えます。その中で、今、いかなる効果が地元、そして鹿児島にあるのかということも御指摘いただきました。まさにおっしゃるとおりで、何のために延長するのかというところ、鹿児島にいかなる効果があるのかということかと思えますので、ぜひ今後とも丁寧に御説明いただいて、この運用時間延長に向けて取り組んでいただきたいと思っております。以上です。